

# 環境報告書 2014

Environment Report



『人と技術』を活かし、常に社会から必要とされる集団を目指すと共に、豊かな環境作りに貢献します。



本年4月、当社はOSJBホールディングスのグループ企業として、新たなスタートを切りました。グループの中核として、更なる企業価値の向上に努めてまいります。

当社は、ステークホルダーの皆様の期待に応えるため、常に『品質を確保し、よいものを、安全に、より安く、より早く完成させる』という気持ちを持ち、社員一丸となり事業に取り組んでおります。

よいものを作って初めて社会に貢献でき、認められ続けることで存在価値のある会社になります。

しかし、よいものを作るだけでは、社会に認められる集団にはなり得ません。当社では社会から必要とされる企業となるために、社会的ニーズである環境への取り組みにも力を注いでおります。

本報告書を通じて、私達の環境への取り組みを理解していただくとともに、皆様からの声を聞かせていただける機会になればと思っております。

企業価値を生み出す源泉である『人と技術』を大切にしながら、これからも、ステークホルダーの皆様方への感謝の気持ちと謙虚さを忘れずに事業に邁進してまいりますので、皆様のお力添えをお願いいたします。

オリエンタル白石株式会社  
代表取締役社長

**井岡 隆雄**

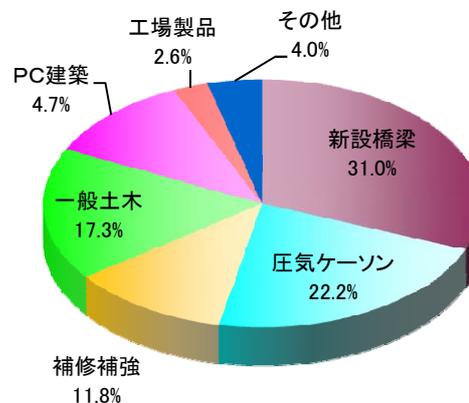
目次

社長挨拶	1	廃棄物排出量と低減対策	8
目次・会社概要	2	環境に配慮した技術開発と施工事例	9
環境経営	3	品質マネジメントシステムと	10
環境目標	4	労働安全衛生への取り組み	
環境マネジメントシステム	5	地域との環境コミュニケーション	11
法令の遵守	6		
事業活動とマテリアルフロー	7		

会社概要

社名	オリエンタル白石 株式会社
本社所在地	東京都江東区豊洲五丁目6番52号
代表者	代表取締役社長 井岡 隆雄
創業	1952年10月21日
資本金	5億円
従業員	620人(2014年3月31日現在)
事業所	本社、東北支店、東京支店、大阪支店、福岡支店 技術研究所、名古屋営業支店、広島営業支店 28営業所、3工場、5機材センター
事業内容	プレストレストコンクリート建設工事の調査、設計、請負及び監理 プレストレストコンクリート製品の設計、製造及び販売 一般土木・建築工事の調査、設計、請負及び監理

売上構成 2013年4月1日～2014年3月31日(第63期事業年度)



作成及び発行について

発行目的	社内外の皆様へ、当社の環境関連情報等を開示すること
対象範囲	オリエンタル白石株式会社 本支店、営業所、工場、各工事作業所
対象期間	2013年4月1日～2014年3月31日(第63期事業年度)
対象分野	対象組織の環境活動
発行責任者	取締役 常務執行役員(安全・品質・環境担当) 大野 達也
担当部署	安全・品質・環境管理室
参考資料名	「環境報告ガイドライン(2012年版)」環境省 「はじめての環境報告書」社団法人 日本建設業団体連合会(2007年2月)

経営理念

人と技術を活かし、常に社会から必要とされる集団を目指す

【行動規範】

私達の“意義”と“責任”と“可能性”  
～私達が、私達であるために～

1. 私達は、「顧客第一の」私達であるために、常に高品質、高機能の建設物を提供し、カスタマーやユーザーのニーズに応える集団であり続けます。
2. 私達は、「競争力豊かな」私達であるために、技術の開発と革新に努めて、個人の能力や組織力を高めるとともに、時代や社会の変化に対して、スピーディーかつ的確に対応できる集団であり続けます。
3. 私達は、「社会から必要とされる」私達であるために、コンプライアンスを徹底し、地球環境に配慮しながら良質の社会資本を構築・整備することにより、社会に貢献する集団であり続けます。
4. 私達は、「安定して発展する」私達であるために、堅実な経営、信用の回復、情報の開示に努め、活力あふれる集団であり続けます。
5. 私達は、「信頼しあえる」私達であるために、快適で働きやすい職場を形成し、お互いの人格を尊重して、能力やモチベーションを高めあい、所属する誇りと《愛着ある帰属感》に満ちた集団であり続けます。

品質・環境方針

【基本理念】

わが社の事業活動である土木構造物の設計、製造、施工及び建築構造物の製造、施工により提供するサービスは、社会資本の整備・維持や地域社会及び地球環境に深く関わっています。その関わりの中で、経営理念「人と技術を活かし、常に社会から必要とされる集団を目指す」に基づき、自らの“意義”と“責任”と“可能性”を発揚する行動規範に則って、能力・資質の向上、システムの維持、絶え間ない改善、安全で豊かな環境作りを目指し、次のことを行います。

【基本方針】

- ① 社会のニーズを満足する品質の成果品を提供し、社会資本の整備・維持に貢献する。
- ② わが社の社会的責任を自覚し、関係法令及びわが社が同意した協定・要求事項を順守すると共に活動を通じて社会的規範となる。
- ③ 設計、製造、施工の開発・改良を実行して、高品質・低コスト化を実現し、この継続に努める。
- ④ 省資源、省エネルギー、廃棄物の削減、リサイクル活動を推進し、環境保全と汚染の予防に積極的に取り組む。
- ⑤ 環境に配慮した技術開発に積極的に取り組み、地域社会に貢献し、かつ地球環境に配慮した設計ならびに技術提案を行う。

わが社は上記を確実なものとするために、社員ならびに関係者に方針を周知し、各部門毎で目標を設定・管理し、常にマネジメントや品質・環境管理システムが円滑かつ効果的に機能するよう、PDCAを通じた改善活動を全ての社員ならびに関係者が一丸となって行います。

2014年4月1日

環境目標

当社では、『環境報告書2014』にて、環境情報の公開を行ないます。当社は経営理念である「人と技術を活かし、常に社会から必要とされる集団」の実現を目指して、環境活動の目的・目標を以下のように掲げます。

環境経営の推進に努め、環境保全への取り組みを積極的に情報公開することにより社会に対する説明責任と環境コミュニケーションを図ります

【目標】『環境報告書2014』による環境情報公開

工事施工段階におけるCO<sub>2</sub>排出量の削減目標設定とその実現に向けての行動を展開します

【目標】日建連のCO<sub>2</sub>排出量調査活動への参加によるデータ収集と蓄積

混合廃棄物の排出量削減により、最終処分量の削減を図ります

【目標】建設混合廃棄物の排出量を前年比10%削減

環境に配慮した技術開発に積極的に取り組みます

【目標】提案・受注による環境活動の実施

## 環境マネジメントシステム

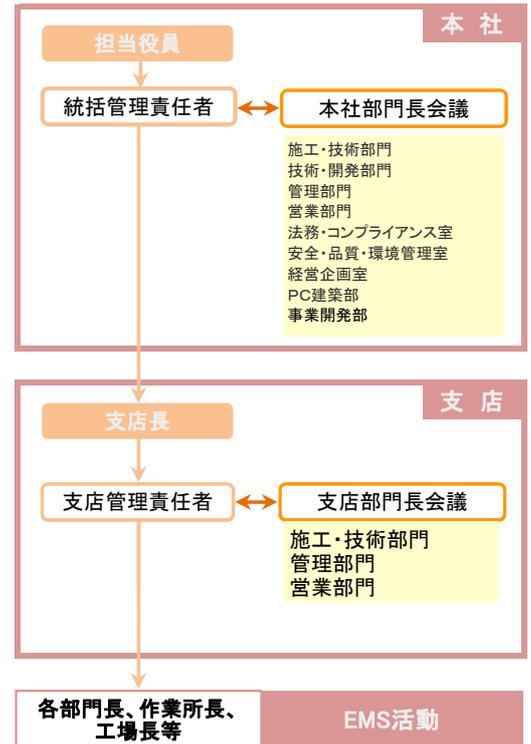
### 環境マネジメントシステムへの取り組み

当社は2002年から全社の事業活動を対象に環境マネジメントシステムを構築し運用しています。2005年4月からISO14001:2004（JISQ14001:2004）に基づく環境マネジメントシステムに再構築のうえ運用を開始し、2007年10月に合併による全面改訂を実施しました。

### 環境マネジメントシステムの組織体制

担当役員は、全社での環境保全活動を確実に実施し維持するために統括管理責任者を任命しています。全社的な活動の検討は、本社の関係部門長が参加する本社部門長会議にて実施しています。本社での検討結果は、統括管理責任者を通じて各支店長へ展開されます。

支店長は、支店での環境保全活動を確実に実施し、維持するために支店管理責任者を任命しています。支店での活動の検討は、支店の関係部門長が参加する支店部門長会議にて実施しています。支店での検討結果は、管理責任者を通じて各部門長等へ展開され、EMS活動が実施されます。



### 監査結果

2013年度に行われた内部監査は上期・下期の2回に分けて実施し、結果は右の通りです。注意事項等については全て改善又は是正処置が実施されました。

内部監査実施状況		
内部監査人員		117 人
内部監査実施	部門	107 箇所
	作業所	21 箇所
監査結果	不適合	0 件
	注意	2 件
	推奨	7 件

2013年度に行われた外部審査の結果は右のとおりです。不適合事項については全て改善又は是正処置が実施されました。

外部審査実施状況		
EMS第7回サーベイランス	2013年7月29日～2013年8月2日	
維持継続の承認日	2013年9月28日	
審査登録機関	一般財団法人 建材試験センター	
審査サイト	本社、東北・東京・福岡各支店	
審査結果	重大な不適合	0 件
	軽微な不適合	5 件
	観察事項	14 件

法規制遵守  
環境監視  
測定実施状況

事業活動において遵守されなければならない環境法規制は多々あります。環境基本法に定めている「7大公害」及び廃棄物に関する法律が主なものです。

工事作業所では、遵守しなければならない環境法規制を工事着工前に特定し、必要な対策を検討し、実施しています。工場においても遵守しなければならない環境法規制を特定し、規制値をクリアするため管理値を定めて管理しています。



■ 工事現場における騒音対策

法律に定める特定建設作業における騒音、振動の抑制及び近隣への表示を行っています。



■ 工事現場における産業廃棄物の保管

廃棄物の処理及び清掃に関する法律に基づき産業廃棄物の保管を行っています。



■ 工場における排水測定

水質汚濁防止法に基づき排水時にpH調整を行い高アルカリ水の排出を抑制しています。定期測定の結果、3工場全てにおいて基準値を超える排出がないことを確認しました。

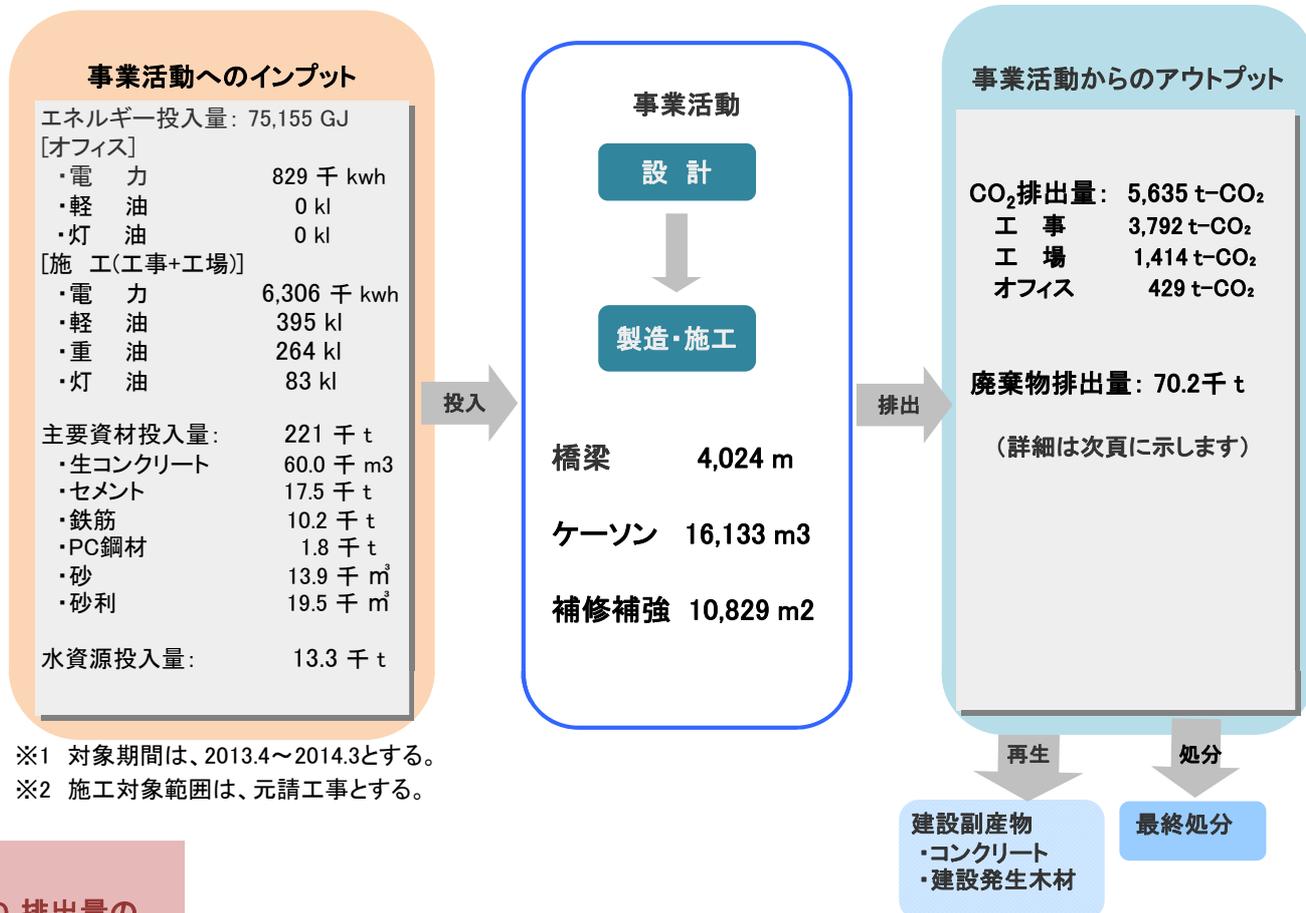


■ 工場におけるリサイクルシステム

コンクリートプラント、ホッパー等の洗い水を砂利、砂、水、ケーキ（スラッジの圧搾かす）に分離して一部リサイクルに活用しています。

事業活動とマテリアルフロー

事業活動におけるエネルギーや資材の使用量、ならびに事業活動の結果排出された物質を計測し、環境負荷を把握することにより、環境負荷の削減活動に取り組んでいます。



※1 対象期間は、2013.4~2014.3とする。  
 ※2 施工対象範囲は、元請工事とする。

CO<sub>2</sub>排出量のモニタリング

工事におけるCO<sub>2</sub>排出量を月々モニタリングし、目標値に向けて対応しています!



※1 工事出来高当りのCO<sub>2</sub>排出量としている。

## 廃棄物排出量と低減対策

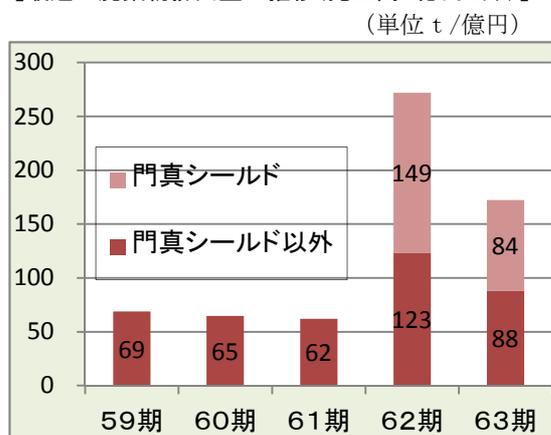
### 廃棄物排出量

当社63期（2013年4月～2014年3月）に排出した廃棄物は、次の通りです。大規模シールド現場（門真シールド）からの排出により、例年より排出量が増大しました。今後はリサイクルの推進・混合廃棄物の減量等の取り組みを全社的に展開し、最終処分量の減少を目指します。

【62期の廃棄物排出量の実績】

品名	数量
コンクリートがら	7,327
アスコンがら	3,981
その他がれき類	4,755
ガラス・コンクリート・陶磁器くず	7,743
廃プラスチック類	492
金属くず	61
紙くず	82
木くず	1,195
繊維くず	2
建設汚泥（門真シールド以外）	12,855
建設汚泥（門真シールド）	30,663
混合廃棄物（安定型）	253
混合廃棄物（管理型）	673
その他	96
<b>合計</b>	<b>70,176</b>

【最近の廃棄物排出量の推移（完工高1億円当り）】

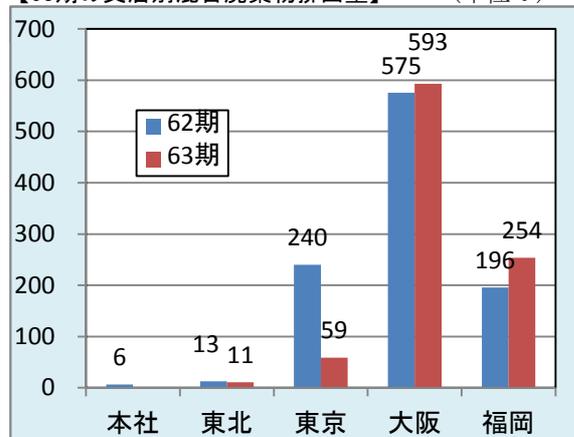


注）・59期は 2010年1月～2010年12月  
 ・60期は 2011年1月～2011年12月  
 ・61期は 2012年1月～2012年 3月  
 ・62期は 2012年4月～2013年 3月  
 ・63期は 2013年4月～2014年 3月

【63期の支店別廃棄物排出量】 (単位 t)



【63期の支店別混合廃棄物排出量】 (単位 t)



【最終処分量低減への取り組み】

最終処分量低減への取り組みとして、3R運動（Reduce-Reuse-Recycle）が推進されていますが、作業所においては以下の取り組みを積極的に行っています。

① 分別活動の推進

② 混合廃棄物の削減

③ コンクリート・アスコン・建設発生木材の全量リサイクル化

④ 納入資材の簡易梱包化

### 廃棄物排出量の低減対策

フライアッシュ

Fly Ash

コンクリート構造物の環境への取り組み

環境負荷の低減技術の開発を進めています

地球温暖化問題に対する世界的な関心が高まっており、社会資本整備に伴って排出されるCO<sub>2</sub>を削減するためのひとつの方策として、低炭素型セメントの利用が注目されています。低炭素型セメントの一つとして、コンクリートに使用されるセメントの一部をフライアッシュで置換したのがあり、混和材の混合率を高めることでセメント使用量を減少させ、セメント製造時に排出されるCO<sub>2</sub>を削減することが可能です。

フライアッシュを使用したコンクリートは、①流動性の改善、②水和熱の減少、③長期強度の増進、④収縮の減少、⑤水密性および耐久性の向上、⑥アルカリ骨材反応の抑制などの効果を持つことが知られています。現在、上部構造としてプレキャストコンクリート桁、下部構造としてニューマチックケーソンの中埋めコンクリートについてフライアッシュを使用することによる性能向上および環境負荷低減を目指した研究開発を進めています。

【フライアッシュを用いた場合の性能向上および環境負荷低減効果】

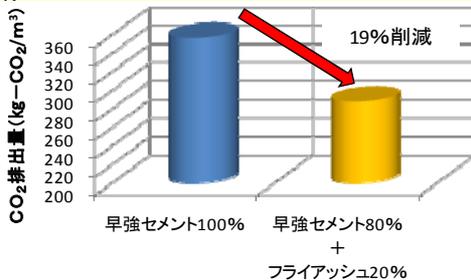
《プレキャストコンクリート桁》

性能向上効果

- ・流動性の改善による施工性能の向上
- ・長期強度の増進による耐久性向上
- ・乾燥収縮の低減によるひび割れ抑制
- ・遮塩性の向上による塩害対策

環境負荷低減効果

水粉体比35%のコンクリートの早強セメントを20%フライアッシュに置き換えた時のCO<sub>2</sub>削減効果



ポステンホロー桁



ポステンコンポ桁

フライアッシュの適用を目指したプレキャスト製品の一例

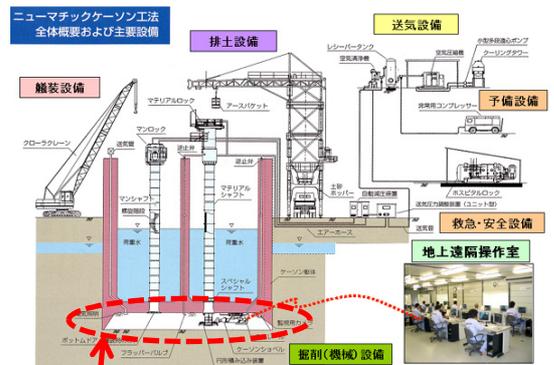
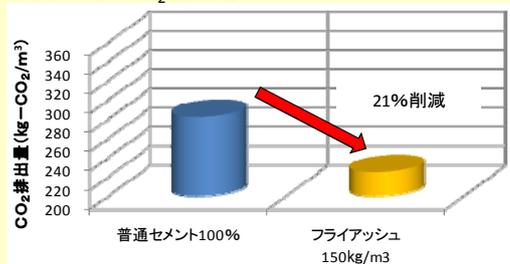
《ニューマチックケーソン中埋めコンクリート》

性能向上効果

- ・流動性の改善による充填性能の向上
- ・水和熱の減少による体積変化の抑制
- ・自己収縮低減による水密性の向上

環境負荷低減効果

水粉体比55%のコンクリートの普通セメントを75kg、砂を75kg合計150kgフライアッシュに置き換えた時のCO<sub>2</sub>削減効果



【中埋めコンクリート】

沈下掘削完了後、作業室内及び開口部を充填する

品質マネジメントシステムへの取

当社の品質マネジメントシステムは、1997年10月にISO9001によるマネジメントシステムの認証登録を行い、2007年12月に合併による新たな組織に準じたシステムの登録を行いました。  
このシステムにより、当社は橋梁その他の土木構造物の新設工事や補修補強工事及び建築構造物の耐震補強工事において、当社の提供する製品及びサービスを同じ品質マネジメントシステムの運用により質の向上を図っています。

外部審査結果

2013年度に行われた外部審査の結果は右のとおりです。不適合事項については全て改善又は是正処置が実施されました。

QMS第13回サーベイランス	2013年7月29日～2013年8月2日	
維持継続の承認日	2013年9月13日	
審査登録機関	一般財団法人 建材試験センター	
受審サイト	本社、東北・東京・福岡各支店	
審査結果	重大な不適	0 件
	軽微な不適合	1 件
	観察事項	6 件

労働安全衛生への取り組み

当社は、2007年10月の合併時より、安全衛生基本方針を定めています。

安全衛生基本方針

- オリエンタル白石は、安全を事業活動推進のための最優先課題と捉え、当社の事業所で働く全ての人々の「安全の確保と健康の増進」を図る。
- 本支店・各事業所並びに協力会社が安全衛生管理活動に努め、全社員の協力の下に「快適な職場環境の形成」を目指し、社会に貢献する。

また、安全衛生管理方針と管理目標を定めて、安全衛生管理活動を推進しています。

平成26年度(64期) 安全衛生管理方針

- リスクアセスメントを取り入れた綿密な事前検討により、事故・災害の芽をいち早く摘み取る。
- 安全の“見える化”を図り、積極的な安全対策を行うと共に現場従事者の安全意識を向上させる。
- 全社員及び協力会社に対して、安全衛生方針・管理目標・重点施策を教育・周知し、重点施策に掲げた同種災害の発生を防止する。

平成26年度(64期) 安全衛生管理目標

- 基本目標 「無事故・無災害の達成」「快適な職場づくりで健康増進」
- 管理目標 「死亡・重篤災害ゼロ」「度数率0.5以下・強度率0.03以下」「墜落災害ゼロ」





# オリエンタル白石

オリエンタル白石では社会・地域との関わりを大切にし、地域住民への説明会や見学会の開催、地域の清掃活動、各種イベントへの参加や支援を積極的に行っております。また、環境関連展示会等への出展等を通して、社の環境保全活動を広く社内外に発信し、交流を図っています。

## 清掃活動

### ■ 本社ビル周辺清掃活動(江東区豊洲)



江東区豊洲駅周辺の清掃活動を毎月1回行っております。地域や社員間のコミュニケーションの場として、今後も継続してまいります。

### ■ 大刀洗町ほたる環境保存会



ほたるが生息する河川敷の草刈作業をおこないました。

地域の方々との  
コミュニケーション

■ 現場見学会(水海高架橋・内灘海浜橋)



地域大学生に現場を紹介し建設業に対する興味を深めてもらいました。

■ 現場見学会(報得川高架橋)



地域住民の方々に現場見学会を行い、構造物に対する理解を深めて頂きました。

その他の  
コミュニケーション

プロジェクト名	住所
・地元祭礼イベント、清掃活動他	福岡支店管内他35ヶ所
・現場見学会	一本柳地区、瀬名高架橋鳥坂工区ほか18ヶ所
・大阪支店鞆公園とその周辺の清掃	大阪市西区江戸堀
・東北支店 清掃活動	仙台市青葉区
・勤マルの日【弁天橋、福博であい橋】清掃	福岡県福岡市
・献血	全国事業所
・エコキャップ運動	全国事業所



